

蓮華<sup>れんげ</sup>王院<sup>わうゐん</sup>の堂前の林泉は、燕子花咲みだれて初夏の眺幽艶たり。むかし此堂のほとりに醴泉あるよし、元亨釈書、百練抄にも見えたり。今の夜泣水ならん予。

著聞集云　永万元年六月八日、蓮華<sup>れんげ</sup>王院<sup>わうゐん</sup>の承仕が夢に、後戸の坤の角より北へ第四の間に墨き山ありけり。峰よりやんごとなき老僧出来て云、抑此水をば何の料に掘ぞ、此水は細みゆれども八功德水甘露利益含識方便水にてあらむずるぞ、よくく精進して汲むべきなり、と云と見て夢覚にけり。去程に件の後戸の石切の下に現に水ありけり、貴賤汲けれども尽ざりけり、又くまぬ時もあまらざりけり、不思議なりける事なり。当時その水見えず、いつのころ失けるにか覚束なし。